別記第1号様式（第7条関係）

令和５年２月２８日

福島町議会議長　溝部　幸基　様

福島町議会議員　溝　部　幸　基

研 修 成 果 報 告 書

福島町議会議員の研修に関する条例第7条の規定により、次のとおり成果を報告します。

記

１　研修日時　　令和５年２月１６日（木）

２　研 修 先　　木古内町「木古内町中央公民館」

３　研修目的　　令和４年度渡島西部四町議会議員連絡協議会研修会

４　成　　果　　別紙のとおり

【研修会講演内容】

演題　「ＤＸと地方創生について」
～未来のまちづくりは教育・人づくりから～

講師　木古内町教育委員会　教育長　藤澤　義博　氏

令和４年度渡島西部四町議会議員連絡協議会研修会研修報告

演題「ＤＸと地方創生」に始まり、「Society5.0」「ＶＵＣＡ時代」「ＯＯＤＡグループ」「Web1.0→3.0時代へ」「デジタライゼーション/ＤＸ」……と続く。

新製品を相手の理解力に配慮せずテンポ良く？自己満足するセールスマンのように流暢に説明が続いた。なんとも証言しづらい憂鬱さを感じる時間であった。

木古内の子どもたちが、どう育つのか、大人たちが、どう変幻するのか？‥‥。

会場が寒く、うたた寝もままならなかった諸氏の心にどう響いたのか？‥‥。

どう報告書をまとめたらと悩んでいると、まさしく、自分の心境を証言してくれている記事が見つかったので、時代に遅れたアナログ人間？として、ため息交じりの反省を込めて、記事を紹介して報告書に代える。

北海道新聞：「今日の話題」欄でコミックエッセー「デジタル原始人☆川原泉」が紹介されていた。

「デジタル原始人」

「日本語で話して」。いら立ちで唇をかみつつ、そう言いたくなることが最近増えている。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・(中略)

「デジタル原始人」こと川原さんの行動は、冒頭の「日本語で―」のみならず、一つ一つが心に突き刺さる。教えてくれる人はいるが、その言葉はカタカナだらけの「謎の呪文」。理解不能なのに「わかりましたね」と問われ、うなずく場面は自分を見ているよう。

最も響いたのは、当初はあきれ顔だった福田さんが、川原さんが「異世界で言葉の通じない孤独」を抱えていたことに気付く場面だ。私を含め、多くのアナログ人間が感じるデジタルへのいら立ちの原因は、自分だけが言葉が分からない孤独、疎外感だったのかも。急速な社会のデジタル化も、突然、「異世界」に放り込まれたという感覚に近い。

デジタル化は止められぬが、せめて専門用語をかみ砕き、説明する労が必要と思う。誰かを孤独にしないためにも。